

令和7年度第3回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和7年12月11日（木）14：00～16：30

方 法：WEB

出席者：【ZOOM参加】11名

奥平藤也（県立中部病院）、糸数真理子（那覇市立病院）、伊禮智則（那覇市立病院）仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、横田美佐（県立宮古病院）、上原弘美（友愛医療センター）、田場純子（沖縄県保健医療介護部）、増田昌人（琉球大学病院）、友利晃子（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）

欠席者：仲宗根恵美（那覇市立病院）、玉城佐笑美（県立中部病院）、間島奈央子（キャンサーフィットネス）、西村克敏（地域統括支援センター）

陪席者：なし

【報告事項】

1. 令和7年度第2回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和7年9月12日）

資料1に基づき、友利委員より、令和7年度第2回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。おきなわがんサポートハンドブックの内容については、検討された相談支援センターの写真掲載はレイアウトの都合上見送りとなり、高額療養制度については自己負担限度額の記載をすることになったと追加報告があった。

【協議事項】

1. 令和8年度地域相談支援フォーラム in 沖縄の開催について

資料2に基づき友利委員より、開催日時・暫定プログラム・がん診療病院から実行委員を要請すること、前回の意見出しの内容について説明があり、引き続きテーマや講師案について意見を求めたいと説明があり、委員より下記の内容が挙げられた。

- ・ACPの関連で、臨床倫理の金城隆展先生による講演
- ・就労やAYA世代に関する内容
- ・災害やBCPをテーマにした内容
- ・認知機能低下のある方への支援に関する内容
- ・ロジックモデルの中間アウトカム「病院幹部が相談支援の役割と重要性を理解し、がん相談支援センターの後ろ盾当てとなることができているということ」に対し、相談支援センターの認知度向上を目指して、まずは院内幹部に参加を呼び掛ける内容
- ・ロジックモデル中間アウトカムを参考に、相談支援センターの体制整備に関する内容（相談員の仕事は他部門からも見えるために、相談員が病院内の他委員会に参加してく等）
- ・県内の文化人や著名人を講師や直接的ではなくてもがんと関連した沖縄らしいテー

マを取り上げることで、受講生の所属する地域での文化的背景に考えが及ぶような内容

今後について、次の3月の部会でも引き続き意見を出し合いある程度のテーマとグループワークの方向性を検討し、4月以降、実行委員会を随時開催していく予定とすると周知された。

2. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）中間評価について

資料3に基づき、増田委員より、情報提供・相談支援部会運営員会での検討されているロジックモデルについての説明があった。また、「第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）中間評価」について、主に共生分野に関し患者体験調査結果に基づく評価であることをふまえた説明があった。さらに情報提供分野について説明があり、特に音声・点字資料や外国語資料の掲示については、地域の医療機関に関する情報等を県ホームページで周知することが必要ではないかと提案があった。

友利委員より相談支援センターの周知率が下がった理由について質問があり、増田委員より調査対象の医療機関が3病院から6病院になったことが多少影響しているかもしれないと回答された。各部会委員より、所属する各病院での院内周知の取り組みについて紹介され、院内研修を利用した周知に取り組んでいることの報告や、院内レクチャーの直後は増えるが次第に減ってしまうので定期的なアナウンスが必要だろうという意見が挙げられた。

【報告事項】

1. 地域統括相談支援センター活動報告

資料4について、紙面報告。

2. がん相談従事者研修会 開催報告

資料5に基づき、友利委員より、今年度第1回がん相談従事者研修会についてアンケート結果の報告があった。

3. リレーフォーライフ参加報告

資料6に基づき、仲村渠委員からリレーフォーライフおきなわの参加について報告があった。

4. 令和7年度第12回九州・沖縄ブロック地域相談支援フォーラム in 鹿児島について

友利委員より、県の取り組み報告を取りまとめ提出したと報告があった。

5. がん患者ゆんたく会（令和7年7～9月）

資料 7-1～7-3 に基づき、令和7年7月～9月に各拠点病院にて開催された、がん

患者ゆんたく会について報告があった。

中部病院は奥平委員より報告があった。参加者は各月5名ずつ、テーマは栄養士や作業療法士を講師にした内容で実施した。開催場所が変更となり、短くしていた開催時間も以前同様に戻して開催した。

那覇市立病院は糸数委員より報告があった。7月にリハビリをテーマにOTとPTを講師にして開催した。9月は病院移転のため休止。

琉球大学病院は友利委員より報告があった。各月毎に講義を開催。社会福祉士を講師にした「社会保障制度」、医師を講師にした「リハビリ」、ピアサポーターによる「体験談」をテーマにした。リハビリの回では身近な道具を工夫して補助具代わりにすることの紹介もあり好評だった。

北部地区医師会病院は仲村渠委員より報告があった。再開後3回目の開催で、事前に化学療法室利用者や地域の施設・市役所・地域包括等へもチラシ配布等の周知を行ったが、参加者はゼロだった。今後の開催について、勉強会を盛り込むことや患者団体との連携の方法を検討中。

6. がん相談件数（令和7年7～9月）

資料8-1～8-6に基づき、令和7年7月～9月の各拠点病院のがん相談件数と内容について報告があった。

○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

通院方法についての相談や訪問看護とのやりとりが多かったこと、医師会病院の訪問診療利用中の方の精神症状への対応で外部のクリニックの医師がチーム医として協力いただいた事例などがあった。化学療法室初回利用の方へはピアサポートの広報をしっかりと行うことができた。

○県立中部病院（奥平委員）

前3か月と比較し件数には大きな変化はなかった。10月には医局会でがん相談支援センターの周知と告知後から治療開始前までの案内をアナウンスした。広報や周知に力を入れ件数増加につなげたいと考えている。

○那覇市立病院（糸数委員）

9月は病院移転で患者数制限の影響があり、利用件数が少し下がった。相談時間が60分を超える方の数が一定数ある。自院でがん相談支援センターの認知度調査を行い、全職員1147名を対象とし、回答率24.4%、グーグルフォームで回答を得た。いくつかの実態が分かったので、告知後の立ち寄りの仕組みづくりや院内広報などに活かしたいと考えている。

○県立宮古病院（横田委員）

全体的にみて前年度と比較し相談件数は増えている。内容について療養先の相談が多い。八重山出身の高齢独居の方の療養選択について、八重山病院と連携を図り対応できた事例があった。

○県立八重山病院（岩崎委員）

相談内容に大きな変化はない。高齢夫婦世帯の事例について、移住者の方への対応

や、入院中の患者への対応についてご家族へ連絡する必要があったが、難聴のため電話連絡が取れず相談員や緩和ケアチームが自宅訪問を行った事例があった。ホープツリー主催の CLIMB®プログラムへの参加報告があった。

○琉球大学病院（友利委員）

治療開始前の相談件数が増え、小児がん患者については両親が来談されることもあると報告があった。

7. がん相談件数集計（令和7年4月～6月）

資料9に基づき、友利委員より、各拠点病院の集計比較について報告があった。

相談内容について、前回報告と比べて傾向に大きな変化はない。治療開始前の来所は県全体で約18%で前年度同様となっていた。

8. がん相談支援センターの広報（令和7年7～9月）

資料10に基づき、友利委員よりがん相談支援センターの広報について、新聞無料広告欄の掲載状況の報告があった。毎週掲載するよう依頼しており、引き続き実施する。

9. 第25回都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会

資料11に基づき、友利委員より報告があった。

議題7のPDCAチェックリストに関する全国調査が実施されるため、各拠点病院には調査協力をお願いしたいと周知された。議題5フィードバック体制の整備については、全国での取り組みについて好事例の紹介があった。議題6相談記入シートおよびカウンtrルールについては、記入や集計にかかる作業量もあるため、現況報告とリンクさせて相談支援業務の見える化に寄与できる内容がよい等の意見が寄せられていた。

7. その他

①次回開催について、令和8年3月12日（木）14時からウェブにて開催予定。現地開催については6月を予定する。

②琉大病院主催アピアランスケア研修会を2026年2月28日午前中、琉大病院にて開催予定。相談支援部会に共催依頼があり承認された。

②友利委員より、AYAウィーク2026主催関係者から、沖縄県からの参加団体が少なく協力依頼があったため、当部会から応援フラッグの提出をしてはどうかと説明があった。委員から一言メッセージを集約し提出することで承認された。各病院から一言ずつメッセージをメールで提出いただく。

③増田委員より補足説明があった。1点目は、会議資料として供覧したロジックモデルについては、取り扱いに注意するよう説明があった。2点目は、「がん患者学会」と「がん相談研究会」の周知と参加の呼びかけがあった。